



孔門十哲図
八重樫豊澤
落款：豊澤齋藤明盥手焚香拝寫
印章：藤實明印、豊澤
個人蔵

令和3年度テーマ展

「新収蔵品 - あーとへのいざない」

八重樫豊澤は、4歳年上の^{おのでらしゅうとく}小野寺周徳に
絵を学び、寺子屋の経営を息子に任せて
^{がぎょうざんまい}画業三昧の生活に入り、多くの作品を残
しました。豊澤の作品は山水図、人物図、
花鳥図など多岐にわたっています。

左は、孔子とその門下の中で最も優れた
10人の弟子を描いた「^{こうもんじつてつず}孔門十哲図」です。
それぞれの顔や髭、木の葉の細部まで丁寧
に筆が運ばれています。また、落款に「手
^{あら}を盥い香を焚き^{はいしゃ}拝写す」ということから、
この絵を描くのにあたり並々ならぬ覚悟で
臨んでいることがわかります。

令和3年9月18日（土）から11月23日
（火・祝）の期間で、**テーマ展「新収蔵品 - あー
とへのいざない」**を開催します。過ごしや
すい季節に博物館へ足を運んでみませんか。

令和3年度花巻市共同企画展

ぐるっと花巻・再発見！～イーハトーブの先人たち～

多田等観 - 運命のチベット、そして花巻 -

期間：令和3年12月11日(土)～令和4年1月23日(日) 休館日：12月28日～1月1日

多田等観^{た だとうかん}は秋田市出身の高名なチベット学者です。ダライ・ラマ13世と師弟関係を結び、10年にも及ぶ現地での修行生活の末、チベット仏教に関する膨大な資料を日本にもたらしました。

現代の玄奘三蔵^{げんじょうさんぞう}とも言うべき偉業を成し遂げた等観ですが、秋田での講演会で「(チベット仏教の研究は)私に与えられた運命であると深く諦めなければならない」と語っています。

本展覧会では、等観が運命と言ったチベット仏教に関する貴重な品々をはじめ、花巻での日々まつわる資料を紹介し、改めて多田等観の功績を顕彰します。

チベットへ向かう

等観は、明治23年(1890)秋田市の浄土真宗本願寺派弘誓山西船寺^{くぜいざんさいせんじ}の三男として生まれます。

秋田中学校(現・県立秋田高等学校)を卒業し、西本願寺でのアルバイトを終えた等観は、浄土真宗本願寺派宗主大谷光瑞^{そうしゅおおたにこうずい}(1876-1948)より、ダライ・ラマ13世(1876-1933)が派遣した3人のチベット人留学生の世話役が命じられました。等観は、約1年間チベット僧と寝食を共にし、チベット語を会得します。

しかし、明治45年(1912)辛亥革命が勃発。帰還の命が下った留学生に付き添い、インドへと渡ることになります。そこでダライ・ラマ13世に謁見を許された等観は、「トゥプテン・ゲンツェン」というチベット名を与えられ、チベットでの修行を提案されます。

逡巡^{しゆんじゆん}していた等観ですが、大谷光瑞の入蔵命令書が出されると、チベット入りを決心し、ブータン人に変装した上で単身ヒマラヤを越えて、チベットの都ラサに入ります。

修行の日々



チベット修行時代の等観

大正2年(1913)9月、ラサに着いた等観は、しばらくは、宮殿などに身を置いていましたが、ダライ・ラマ13世より、寺院に入り修行をしながらチベット仏教を学ぶよう命じられます。

当時5,500人ほどの僧侶が所属していた大僧院、セラ僧院に籍を置くことになっ

た等観は、学僧として過ごす傍ら、チベット大蔵経をはじめとした仏教関係の典籍の収集につとめました。

チベットでの生活の中で、ダライ・ラマ13世とは師弟関係以上の強い絆を結びます。一般のチベット僧は、ダライ・ラマ13世に年に一度しか謁見できませんでしたが、等観はダライ・ラマ13世のもとに行きさえすれば、いつでも会うことができたようです。

こうしたダライ・ラマ13世の強い援助も得ながら、約10年間の修行を終え、外国人で初めて最高学位であるゲシェー(大僧正)を与えられました。

美しきチベットの仏

大正12年(1923)、等観は約24,000部にも及ぶ膨大な経典や、美しい仏画・仏像を携えて日本へと帰国しました。

チベットは標高の高い土地であるため、木材が産出されませんが、鉄や金などの資源が豊かなので、チベットで造られる仏像のほとんどが金剛仏となっています。等観が日本へ持って来たり、帰国後にチベットから贈られたりした仏像も、金や宝石で美しく彩られています。



文殊菩薩坐像

文殊菩薩は、仏の知恵を象徴する菩薩として、日本でもよく知られています。等観が帰国の際にタシルンポ寺の法主パンチェン・ラマより下賜された文殊菩薩坐像は、右手に剣の乗った蓮華を持ち、左手に知恵を象徴する般若経典が乗った蓮華を持っています。細

やかな金細工と宝冠や腕のトルコ石の装飾が美しい仏像です。

等観は帰国する際、ダライ・ラマ 13 世に『釈迦しゃか牟尼世尊むにせそんえでん絵伝』全 25 幅を望みましたが、ダライ・ラマ 13 世の没後、昭和 12 年 (1937) に彼の遺命によって等観のもとに届けられました。

『釈迦牟尼世尊絵伝』とは、釈迦の生涯にまつわるエピソードを描いたものです。一般的には 9 幅セットが普及していますが、等観に与えられたような、20 幅を超える大規模なセットは世界的にもほとんど類例が見られません。

この『釈迦牟尼世尊絵伝』は、チベットのポタラ宮壁画の原画とされており、チベット国宝クラスともいえる宝物を贈ったダライ・ラマ 13 世と、等観の間にはそれほど深く強固な絆があったことが窺い知れます。



釈迦牟尼世尊絵伝 本尊

✂ 等観と花巻 ✂

昭和 20 年 (1945)、等観はチベットから持ち帰った資料を戦禍から守るため、実弟が住職をしていた花巻の光徳寺に疎開させます。しかし、光徳寺も空襲の被害に遭う可能性が高いということで、湯口村

(現・花巻市湯口) に居住していた光徳寺の檀家の蔵に分散させて、資料を守りました。それが縁となり、等観は度々花巻を訪れ、地元の人々をはじめ、高村光太郎や宮沢賢治の父政次郎らと交流をして過ごしました。



ねんねこ姿の等観 (中央)

昭和 22 年 (1947) には、湯口村の円万寺観音山に、等観が花巻に来た時に滞在するための「一燈庵いっとうあん」が建てられました。

等観は、円万寺観音堂の本尊として、ダライ・ラマ 13 世から下賜された千手千眼十一面観音立像を納めたり、長い間失われていた観音山の梵鐘の鑄造について助言や援助をしたりと、観音山の整備に積極的に協力しています。

一燈庵で使っていたものや、花巻の人々に贈った書などを通して、等観が花巻で過ごした日々を回顧します。

■ 関連イベント ■

○館長講座-3「西域と多田等観と宮沢賢治」

日 時:1月22日(土)13:30~15:00

場 所:花巻市博物館講座体験学習室

定 員:30名 (聴講無料、要予約)

○学芸員講座「多田等観と花巻との縁について」

日 時:12月18日(土)13:30~15:00

場 所:花巻市博物館講座体験学習室

定 員:20名 (聴講無料、要予約)

○ギャラリートーク

日 時:1月8日(土)13:30~14:30

場 所:企画展示室

※申込は不要ですが、入館料が必要です。

○花巻市内の共同企画展開催施設にて、スタンプラリーやバスツアーを実施します。

令和3年度 テーマ展

新収蔵品—あ—とへのいざない

期 間: 令和3年 9月18日(土)～11月23日(火・祝)

日本には四季折々の情景や季節感がありますが、暑い夏が過ぎた後にやってくる秋は何をするにも心地よい気候です。「芸術の秋」というフレーズもあるように、秋と芸術が結びつくのは、過ごしやすく心地よい気候によるものだとわれています。

そこで今回の展覧会では、近年新たに寄贈・寄託をいただいた美術工芸の作品を中心に、盛岡藩お抱え絵師や明治まで活躍した絵師の作品をはじめ、刀剣・刀装具・油彩画・やきものなどを展示します。

I 刀剣と刀装具

この章では、刀剣と刀装具を紹介します。刀剣を身近に携帯し、使用しやすくするための付属装置が刀装であり、その部具が刀装具です。具体的には、刀身を納める鞘、下緒を付す栗型、握りやすくするための柄、握り拳を護るつば鐺などです。



目貫 蝙蝠
梅忠就寿
銘：梅忠就寿



鐺 雲龍図
梅忠就榮
銘：岩手郡住就榮作
花巻市指定文化財



目貫 風神雷神

II やきもの

やきものは、私たちが普段から使用しており、とても身近にあるものです。博物館に近年、寄贈、寄託されたやきものには、鍛冶町焼や台焼など、花巻に関わるもの、岩手県内外のやきものなど様々見られます。



飴黒釉徳利
鍛冶町焼



粉引茶盃
堤焼

III 絵画作品

博物館に寄贈、寄託される絵画作品は、花巻の絵師や花巻に関わるものがほとんどです。平成16年4月に開館した際は、絵画作品も少ないものでしたが、これまで「花巻の三画人」の作品を中心に展覧会を開催してきたこともあり、収蔵作品も増えてきました。

今回、花巻の三画人のやえがしほつたく八重樫豊澤 (1763-1842) の作品を中心に、水墨画、油彩画等を紹介します。

絵師や作家の繊細かつ大胆な筆づかい、緻密な構成で描かれ、細部までこだわりぬいた作品をご堪能ください。

また、花巻出身の橋本雪蕉(1802-1877)は、「花巻の三画人の一人です。雪蕉は幼いころ、八重榿



蕉門十哲図
橋本雪蕉
落款：素淳敬寫、印章：雪蕉
個人蔵

豊澤に絵を学びました。その後、八戸へ行った時に橋本家の目に留まり橋本家の援助のもと、京都の浦上春琴(1779-1846)に師事して文人画の技法を学びました。

天保年間(1830-1840)には、鎌倉・建長寺の真浄禅師和尚の元で禅の修行をし、名画を模写して腕を磨いたと伝えられています。弘化年間以

降、江戸へ定住し明治元年(1868)年までの20数年間は画業生活を送りました。晩年、八戸に帰り画業三昧の生活を送り、明治9年(1876)の明治天皇巡幸の際には自作を天覧に供しました。

萬鉄五郎(1885-1927)は日本近代美術の先駆者であり、土沢(現・花巻市東和町土沢)の風土と西洋の新しい美術表現を融合させ、独自の画風を確立させました。

「馬車のいる風景」は、郷里土沢の街道風景を描いたと考えられます。若かりし萬の意気込みが感じられます。右上に「1911」とサインも見受けられます。



馬車のいる風景
萬鉄五郎
明治44(1911)年、油彩・キャンパス
33.5 × 45.5cm
個人蔵

私たちの生活の中には、いたるところに“あーと”が存在し、みなさんも実際に見たり触れたり、創造した経験があると思います。そんな身近なあーとを鑑賞することによって、興味関心を抱ききっかけやより身近に感じてもらう機会になればと思います。皆様のご来館をお待ちしております。

◆ 関連イベント ◆

○ギャラリートーク

日時 10月17日(日)、11月3日(水・祝)
両日とも13:30~14:00

場所 花巻市博物館 企画展示室

※申込は不要ですが入館料が必要です。

○ワークショップ「台焼作り」

日時 9月25日(土)13:30~

場所 花巻市博物館 講座体験学習室

材料費 1,500円

定員 15名

講師 杉村峰秀氏(五代目台焼窯元)

※新型コロナウイルス感染症予防対策のため
ワークショップは事前申込制

問合せ先 ☎0198-32-1030

(8:30~16:30)

活動レポート

花巻市博物館は、開館当初より博物館と市内小・中学校との連携を、経営の重点の一つとして取り組んで来ています。今年度は6月1日に、令和3年度博・学連携研究委員会議を開催し、今年度の事業について協議を行いました。今年度の主な事業は、次のとおりです。

1 博物館職員による学校訪問

博物館の職員が市内小・中学校を訪問し、博物館の展示予定や出前授業等のプログラムについて説明しました。

2 令和3年度博・学連携推進研修会開催

6月1日に開催しました。今回の博・学連携推進研修会では、2月開催予定の企画展示「ブドリのイーハトーブ災害ノオト」の紹介を、研修会場と下の階の学芸室とをインターネットで結んで、オンラインで行いました。

3 博・学連携先進施設視察研修

11月12日に実施予定です。今年度の視察先は、遠野市立博物館と北上市立博物館の予定です。

4 学校の博物館見学の受け入れ

昨年度の花巻市博物館の見学を行った市内小・中学校の数は、新型コロナウイルス感染を心配してか、例年の半数ほどでした。



令和3年度博・学連携研究委員会議

5 出前授業・出前体験学習の実施

昨年度は出前体験を利用する学校こそありませんでしたが、出前授業の利用は例年とほぼ同じ校数でした。

6 教育資料の貸出しと制作

アートカードである「花巻人形カード」Vol.1の制作と「花巻人形カード」Vol.2の試作を行います。

7 職場体験受け入れ

中学生の職場体験を新型コロナウイルス感染拡大による市関連施設の利用制限ガイドラインレベル2以下の期間のみ受け入れます。

8 博・学連携だより「ふくろう」の発行

毎月1回発行し、市小中学校に教職員分を送付します。

9 テーマ展示等のギャラリートークへ

市内小・中学校の教職員を招待します。

10 GIGA スクールへの支援

学校での授業時間中に、オンラインで学芸員が解説を行います。また、調べ学習に対応したホームページの研究を推進していきます。

花巻市博物館

常設展示「先人コーナー」展示替え

この度、花巻市博物館では先人コーナーの展示替えを行いました。

明治時代以降、花巻からは多くの優れた人物が世に出ています。ここでは、多くの先人の中から、韓国女子教育の母・^{ふちざわのえ} 淵澤能恵、花巻共立病院の創立者である^{さとうたかふさ} 佐藤隆房、昭和期に宮大工として名をはせた^{うすぎやあそ} 薄衣八百藏、そして近代花巻のキリスト教徒・^{さいとうそうじろう} 齋藤次郎の4人を取り上げて紹介しています



「大地に根ざした人づくり」の展示コーナー

館長 コラム

とばつびしゃもんてん 兜跋毘沙門天

花巻市東和町成島毘沙門堂の兜跋毘沙門天像は、像高348cm、毘沙門天像を支える地天女像を含めると473cmもあり、一木造では、日本一の巨像である。征夷を象徴する仏像といわれる。毘沙門天は、サンスクリット語のヴァイシュラヴァナを漢訳したもので、その意味は、「良く聞く」ということから、多聞天とも呼ばれる。北方を守護する四天王の一人である多聞天は、独尊で祀られるものを毘沙門天と呼び、このうち地天女の両手に支えられて立ち、二鬼を従える姿で表されるものを兜跋毘沙門天という。

宮沢賢治は、成島の毘沙門堂をテーマにした文語詩を残している。

「アナロナピクナピ眠たく桐咲きて 峽に瘴のやまひつたはる ナピクナピ アリナリ 赤き幡もちて 草の峠を越ゆる母たち(略) 毘沙門像に味噌たてまつる(略)』
『祭日(二)』

伝染病から子供を守るために赤い幡を持って毘沙門

天に参詣する光景を詠んだもので、どこにも征夷の巨像のイメージがない。むしろ味噌を塗って祈る地元の人々に慕われる仏様である。

日本の四天王信仰は、軍事的脅威から国を守る護国信仰として始まる。「法華経」や「仁王経」と共に護国三部経とされる「金光明経」に基づく信仰である。

飛鳥時代から平安時代前期までの四天王信仰は、軍事的脅威に対抗することが主眼とされていたが、平安時代前期後半には軍事的脅威から疫病という観念的脅威から守る仏へと変化したという。また、その頃四天王とは別に毘沙門単独の信仰も多くなり、毘沙門天は、疫病を鎮める代表的な仏像となる。「金光明経」には、境界祭祀の他に疫神を鎮める功德が付与されているという。

成島の兜跋毘沙門天は、坂上田村麻呂の化身と伝えられ、北方を守護する征夷の仏像のイメージが強い。しかし、この像が制作された頃には、毘沙門天信仰が疫病を鎮める利益に変化していたと考えられる。成島の兜跋毘沙門天は、征夷の象徴というより、宮沢賢治が感じた通り、疫病から人々を守る仏様として信仰されてきた仏様ではないだろうか。

(館長 高橋信雄)

行事予定

令和3年8月
令和3年11月の行事予定

企画展示室

- テーマ展「鉄道と花巻—近代のクロスロード—」
会期：開催中～8月29日(日)
会期中無休
- ミニ展示「奥羽再仕置 430年記念事業 稗貫・和賀両郡と再仕置」
テーマ展・ミニ展示ともに
入館料：一般350円(300円) / 高校生・学生250円(200円) / 小・中学生150円(100円)
※() 内料金は20名以上の団体料金
- テーマ展「新収蔵品 - あーとへのいざない」
会期：9月18日(土)～11月23日(火・祝)
会期中無休
入館料：一般350円(300円) / 高校生・学生250円(200円) / 小・中学生150円(100円)
※() 内料金は20名以上の団体料金

講座・ワークショップ

- 【講座】
10月2日(土) 館長講座-2
「中世末から近世初頭の花巻」

※要事前予約。詳細につきましては、博物館へお問い合わせください。
- 【ワークショップ】
8月8日(日) プラ板作り体験
9月18日(土) 勾玉作り体験
9月19日(日) 琥珀玉作り体験
9月25日(土) 台焼作り体験

※時間は全て13:30～15:00。
※いずれも要事前予約。詳細につきましては、博物館へお問い合わせください。

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松 26-8-1
電話：0198-32-1030 FAX: 0198-32-1050
開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで
休館日：12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

※() 内は20名以上の団体割引料金
※割安な近隣4館共通券もあります。
※特別展示を行う場合、入館料を定める場合があります。

交通案内

- 東北新幹線
新花巻駅より車で3分
- 東北本線
花巻駅より車で約15分
- 釜石自動車道
花巻空港ICより車で約5分
- バス
新花巻駅より約5分
岩手県交通 土沢線
イトーヨーカドー行
賢治記念館口下車



URL: <https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1008981/index.html>

花◊博 コレクション

Hanahaku collection



岩手県花巻町地割配列全図 昭和12年(1937)6月 縮尺1/6000 143.0×111.0cm

令和3年(2021)2月に花巻市御田屋町の天巖山宗青寺から当館に寄贈された戦前の花巻の様子を伝える貴重な絵図です。手書きで彩色されたもので、役場などの施設は赤色に着色されています。花巻城跡には「鳥屋ヶ崎城跡、目下鳥谷ヶ崎トモ唱方」「尼平城、安倍館」と書かれ、当時、花巻城は鳥屋ヶ崎城と呼ばれていたことや、安倍氏の館だと考えられていた可能性もあります。他にも、宮沢賢治がイギリス海岸と名付けた小舟渡の北上川河岸には「胡桃ノ化石時々現ル」と書かれ「往事舟渡場跡」が示されているなど、興味は尽きません。

この絵図は今夏開催のテーマ展「鉄道と花巻—近代のクロスロード—」(開催中～令和3年8月29日⑥)でも出品されます。貴重な絵図を間近で見られる機会をお見逃しなく。

(学芸員 小田桐睦弥)